



代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX 072-977-8782

かしわら見張り番

10
no.14

柏原市財政改革

詐欺まがいの改革では破綻

不正疑惑の岡本市長に改革は無理

十月の柏原市議会定例会では、柏原市の財政改革が重要な議題となった。破綻寸前の柏原市の財政を改善するためには、ごまかしをせず、市民に正直に実態を告げ、抜本的な改革に大なたを振るわなければならない。

柏原市の財政は破綻寸前。財政の大きな負担になっているのは、多くの自治体と同じように人件費だ。ここに大なたを振るわない改革なら、ごまかしと言わざるを得ない。

たとえば、累積赤字百億円とも言われる柏原病院は、柏原市の財政の足を、著しく引っ張っている。今回の議会で、岡本市長は、経営改善の努力をしていることを強調し、「知人に、あなたの顔色悪いやないか」と言



柏原市の財政の足を引っ張る柏原病院。ごまかしの改革ではなく、抜本的な改革が必要だ

十月四日、本会議で議員定数削減、報酬削減を内容とする議案が審議された。議員が自らの身を削る覚悟を持つのは当然だ。ただし、その結果、議会の力が弱まり、市長の独裁を許すようになったのでは、財政はますます悪化するだろう。

ムダ監視する議員は必要

は二〇〇六年度

市議会を傍聴したところ、市民なら、自分に対する議員を威圧し、暴言を吐く岡本市長の姿を知っているはずだ。

今回の提案通り議員を三人減らせば、議員歳費を節約できる。しかしそれ以上に、「わたし」による退職金

手当（memo欄参照）がカットされたのだから、議員も削減すべき」と発言したが、これは、事実と異なる。柏原

で二億四千万円に上った。こういう大規模な不正やムダ遣いを正し、市長の独断専行を防ぐには一定数の良識ある議員が必要だ。ただ、市長のヘゴマすりや保身ばかりを考える議員なら一人もいない。

で、最近も二人ほど入院させました」となどと言いつつ傍聴者の失笑を買った。市長の公約である「三年で黒字転化」は困難な状況だ。公約違反の責任もあるが、もっと市民が納得できないのが、市職員である「病院管理者」の存在。この役職の年収は一千万円をはるかに超え、しかも、市幹部の再就職だ。つまり、数千円の退職金を払い、すぐに再び採用してさらに一千万円以上の給与を払っているのだ。これらはもちろん市民の税金。これでは市民が納得できるはずはない。

市幹部の再雇用 給与一千万円超

このような「管理者」が、岡本市政になってから増え、今は五人。全員が一度退職した幹部の再雇用だ。税金から支払われる給与は、合わせて毎年六千万円近くになる。

ただでさえ民間に比べて給与の高い幹部職員。退職まぎわにポストを渡り歩き退職金を引き上げるなどの悪弊も伝え聞く。退職後に管理者として再就職して高給を取るなど、民間の常識とはかけ離れた話だ。

市民サービスの現場を担

う若い職員や、消防士など重要な専門業務にあたる職員の給与は適正に確保し、快適で安全な市民生活を守るべきである。しかし、平成二十一年度決算書によると、ある市民サービス業務の管理職員一人に対して、やはり一千万以上が支払われている。このような管理業務などにムダがないかを、精査する必要がある。

市長の暴走止める

議会の役割が必要

議会も行政と一丸となって財政改革に当たるのは当然だ。議員定数や報酬の削減という市民の要望にも取り組まねばならない。ただ、議員定数が減り、議会が弱体化すれば、市長の独裁と暴走を許しかねない。

これまでの岡本市政を見ると、前述のような幹部職員の厚遇や、管理職ポストの増加が目立つ。新たに「戦略会議」を立ち上げ、独断で刑事被告人である中司宏氏を議長に据えたのは、岡本市政の性格をよく表している。自分の後援者に便宜を

図つたのではないかとこの入札疑惑、これを追及する議員の言論を封殺するなど、独裁的傾向の強い岡本市長によって市民の不利益を招かぬよう、議会は二元代表制の原則に従い市政の監視を強化すべきだ。

【地域手当】 民間給与水準の高い都市部に勤務する国家公務員に、基本給の3～18%の6段階で支給される手当。それまでの調整手当に代わって設けられた。

地方公務員もこの基準に合わせることが規定され、柏原市は3%の支給率となった。しかし柏原市では、調整手当の時と同じ10%で支給を続けており、当

初、新しい基準の実施時期も

でいなかった。過払い分は、2006年度で2億2400万円に上った。

このため府は、「不適正支出であり税金のムダ遣い」として柏原市に改善を指導、総務省も「不適切であり改善が必要」とした。

職員の地域手当を下げたのは、あくまで不適切であったため。それを「財政改善のために身を削った」と言うのは当たらない。

かしわら 単語帳

いまの柏原を知るためのキーワードを毎回解説します。

ぼうげん【暴言】

自分に後ろ暗いことがあると、ついつい相手を威圧するために出てしまう言葉。



どこかの市長さんは、選挙演説を聞いている限りなかなかの弁舌家。しかし、議会での議論になると馬脚が現れることがある。自分への批判や気に入らない質問には感情的になる。最近、刑事被告人を市の要職に据えたことを批判されるとよくキレる。